

「国保連合会保健事業支援・評価委員会」委員による報告会 (10月4日開催) について

- ・「国保連合会保健事業支援・評価委員会」委員による報告会については、平成 26 年度、平成 27 年度開催した。(日程表 P4 参照)
- ・平成 27 年度は、保健事業支援・評価委員会の保険者支援について、運営委員会委員の進行のもと、支援を受けた保険者と、支援を行った支援評価委員及び国保連合会事務局職員によりパネルディスカッションを行うとともに、平成 27 年度以降本格化する個別保健事業の評価のあり方について共通認識を持っていただく等、各都道府県の保健事業支援・評価委員会の運営に資することを目的として開催した。
- ・今般、昨年度に引き続き、平成 28 年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」委員による報告会を平成 28 年 10 月 4 日に開催する。

1. 平成28年度以降の報告会の開催について(平成 27 年度報告会アンケート結果より)

(1) 支援・評価委員

(人)

今回と同様の内容で実施	24	55.8%
内容を変更して実施	18	41.9%
不 要	1	2.3%
計	43	100.0%

(2) 事務局

(人)

今回と同様の内容で実施	26	50.0%
内容を変更して実施	26	50.0%
不 要	0	0.0%
計	52	100.0%

※2名出席だが、1名分として回答している連合会が1。

2. 平成 28 年度以降に実施して欲しい内容等(平成 27 年度報告会アンケート結果より(抜粋))

(1) 支援・評価委員

- ・困難事例の紹介
- ・都市部の大規模な自治体と、地方の小規模な自治体の両方の事例の紹介
- ・評価計画の事例の紹介

1	・保険者支援の観点から言うと、成功事例よりも困難事例からの方が得られるものが大きいように思う。特に町村のような規模の小さい保険者ではマンパワー不足から策定を見送るケースもあり、そのような保険者での支援例の紹介を増やした方が保険者支援には有用に思う。
2	・大都市の例は地方ではピンとこない。困難を克服した事例が聞きたい。

3	・基本的には今回と同様でも良いが、当初の試行錯誤を経て、モデル的な計画策定を行った事例についての発表も聞きたい。ただし、都市部の大規模な自治体と、地方の小規模な自治体の両方の事例が必要。
4	・都道府県ごとに進捗度に差異があり、対象規模の大きさの違いも存在する。グループ討議の深化に際しては、この点のご配慮をいただけると有難い。
5	・今後は各保険者に、情報の収集・分析の「専門家」を如何に養成していくか、また効果的な保健事業を実践するために、どのような工夫が有効であるのか、対象者へのインセンティブとしてはどのような方式が考えられるか、継続的に実施するためには、どのように予算を確保し、配分すべきなのかといった課題があると思う。
6	・KDBなどのデータから抽出・加工する指標について、最小限のセットを全国標準版として整理してもらいたい。岡山Dr. が紹介されたプロジェクト管理の手法を、もっと深掘りして研修することが望まれる。
7	・臨床現場では、医療機能評価や医療マネジメントの導入から医療の質評価が一段と進んでいる。質評価に関する基本的な研修が必要であると感じた。
8	・データヘルス計画の評価・見直しをどのように行っていくかについて、評価計画の事例と講義。
9	・グループワークの進め方は、第一部、第二部に分けるのではなく、まとめて実施してもよい。（出席者に十分な知識とスキルがあるように思われる。）同様に、具体的な作業課題がなくてもよいように思われる。
10	・特にコストと効果について、徹底的な討論がほしい。（本事業の最大のテーマであると考える。）

(2)事務局

- ・「評価」に重点をおいた報告会の実施
- ・大・中・小規模での取り組み事例の紹介
- ・事業評価に取り組んでいる連合会の実践例の報告

1	・次年度は保健事業が進んでいるところも多いと思うので、「評価」に重点をおいた報告会を実施してほしい。
2	・評価に関する具体的な講義。せっかく事例集を作成していただいたので、特徴的なことをまとめて講義をいただきたい。
3	・評価の先進的な事例について話が聞きたい。事例発表がもう少しあればよいと思った。
4	・実践から評価の方法、評価指標など具体的に深めていけるような検討ができるとありがたい。
5	・次回は、保険者に対する計画策定支援は、ほぼ終了しているので評価に関わる内容にして欲しい。
6	・評価支援の考え方について総論ではなく、具体的な事例に基づくご指導をお願いしたい。今後色々なノウハウが蓄積され、実際に保険者から高い評価が得られた評価委員会のやり方等についてご発表頂き、各グループもしくは全体で学びあう。
7	・今後、支援の方向性を標準化していく必要があるのではないかと感じている。そのためには、本研修会での津下先生や岡山先生の講義内容を連合会職員が、もう少し深められるような内容を希望する。
8	・上手くPDCAサイクルが回せた事業への支援内容・方法について。
9	・事業評価に取り組んでいる連合会の実践例の報告。保健所の協力体制を構築した連合会の実践例の報告。事業運営委員会において検討されている内容の報告
10	・支援方法が各都道府県でさまざまであるので、その実施方法や内容がわかると、参考にできると思う。
11	・現在、支援評価委員の活用方法で検討しており、支援・評価委員が、実際に訪問して支援

	したり、会場に集まって評価委員会を開催するなど様々な方法での支援があるので、どんな課題は、どんな方法で実施することで、保険者にどれだけの支援が出来たか、効果があったかという具体的な事例報告が聞きたい。
12	・事務局の方には、とても負担がかかって申し訳ないが、とてもよい機会でありせっかくの研修なので、半日とせず1日を有効に活用した内容にしてほしい。例えば、各グループごとの意見交換の時間も現在もっているが、委員同士がもっと意見交換できる場の設定や、他の県の取り組み方についての紹介をもっと取り入れていただきたい。特定の県の方だけでなく、ワールドカフェ方式のようにいろいろな県の方と情報交換できる場を設定していただきたい（半日出席するのも1日出席するのも遠方からは同じことだと思う）。
13	・大・中・小規模での取り組み事例。
14	・事例報告を1県だけでなく、2～3県程入れて欲しい。
15	・データヘルス計画に関するデータの読み解き及びデータを活用した具体的な評価についての研修会を実施していただきたい。
16	・KDBシステムを活用した個別事業評価の方法と国保連合会の評価の役割について。
17	・講演よりもグループワークの時間等をもう少し多くしていただきたい。

3. 平成 28 年度の開催要領(案)

(1) 目的

- ・各連合会から提出される平成 27 年度の「国保・後期高齢者ヘルスサポート事業 事業報告書」をもとに、保険者等が保健事業支援・評価委員会の支援を受けたことにより、PDCA サイクルでのデータヘルス計画を策定できたか、PDCA サイクルによる保健事業の展開ができたかなど、支援・評価委員会、国保連合会による支援に対する保険者等からの評価について事例を紹介する。
- ・第 2 期データヘルス計画策定に向け、今後の効果的な支援に生かすために、どのような取り組みがなされたのかを紹介する。また、委員会の支援によって保険者に気付きや変化が見られたと思われる事例を紹介し、保健事業支援・評価委員会の運営に際しての参考としていただく。
- ・平成 27 年度に引き続き、個別保健事業の評価の方法について、運営委員会から示した具体的な様式等の活用方法を示すこと等により、保健事業支援・評価委員会の委員に対し、どのように個別保健事業の評価を実施していくことが有効か等について議論していただき、共通認識を持っていただく。

(2) 開催日時(予定)

平成 28 年 10 月 4 日(火) 午後 1 時～5 時

※午前(10 時～12 時) 国保連合会事務局(職員)による情報交換会の開催を予定

(3) 報告会の参加対象者

保健事業支援・評価委員会委員(各都道府県代表者 1 名ずつ)

保健事業支援・評価委員会事務局担当者(各都道府県代表者 1 名ずつ)

なお、運営委員会委員の皆様には、報告会当日の午後のグループ討議等進行についてご協力をお願いいたします。

平成 26 年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」委員による報告会	
日時	平成 27 年 2 月 5 日
参加者	支援・評価委員会委員 36 名、国保連合会職員 47 名 計 83 名
内容	<p>■保健事業支援・評価委員会 事務局との打合せ 国保連合会職員間で各国保連合会における支援・評価委員会の運営状況、保険者への支援方法等について意見交換を行い、支援・評価委員を交えての情報交換が円滑に進行するよう準備を実施</p> <p>■講演「国保・後期高齢者ヘルスサポート事業支援・評価委員会へ期待するもの」 国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会 委員長 全国訪問看護事業協会 会長 伊藤 雅治氏 国保・後期高齢者ヘルスサポート事業立ち上げの背景、平成 26 年度に実施した保健事業実態調査の結果から、保険者等が支援・評価委員会へ期待することについて講演</p> <p>■グループディスカッションによる情報交換 コーディネーター 国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会 委員 あいち健康の森健康科学総合センター長 津下 一代氏 コーディネーターによる説明を受け、全国の支援・評価委員会委員の代表者、事務局を担う国保連合会の担当者によるグループディスカッションを通じ、支援・評価委員会委員として今後どのような活動をしていけばよいか考える契機となることを目的に支援・評価委員会委員間の情報交換を実施</p> <p>■グループディスカッションのまとめ「支援・評価委員会への期待」 国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会 副委員長 合同会社生活習慣病予防研究センター代表 岡山 明氏 グループディスカッションの内容を受け、今後の支援・評価委員会に対する活動についての示唆を取りまとめ、講演</p>

平成 27 年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」委員による報告会	
日時	平成 27 年 10 月 26 日
参加者	支援・評価委員会委員 43 名、国保連合会職員 53 名 計 96 名
内容	<p>■保健事業支援・評価委員会 国保連合会事務局職員による情報交換会 ・保健事業支援・評価委員会未利用保険者への支援 国保連合会職員間で事務局としてヘルスサポート事業を実施したことによる効果・課題について意見交換を行い、今後の支援・評価委員会の運営につなげた。</p> <p>■パネルディスカッション「保健事業支援・評価委員会の保険者支援の活動を通して考える」 (パネラー) ・神奈川県 藤沢市保険年金課 上級主査 長澤 由紀子氏 ・神奈川県国保連合会保健事業支援・評価委員会 委員 昭和大学 保健医療学部看護学科 講師 村田 加奈子氏 ・神奈川県国民健康保険団体連合会企画事業部保健事業課保健事業係 主査 三木 礼雄氏 (コーディネーター) 国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会 委員 あいち健康の森健康科学総合センター長 津下 一代氏 支援・評価委員会による保険者支援による効果を実感していただくために、支援を受けた保険者、支援をした支援・評価委員会委員並びに事務局からそれぞれの視点からの保険者支援の活動について説明。その内容を受けてコーディネーターを交えたパネルディスカッションを実施</p> <p>■グループディスカッションによる情報交換 「これからの保険者支援のあり方について」 パネルディスカッションを受けて、「これからの保険者支援のあり方」について支援・評価委員並びに国保連合会職員によるグループディスカッションを行い、意見交換を実施</p> <p>■講演「個別保健事業の評価のあり方について」 国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会 副委員長 合同会社生活習慣病予防研究センター代表 岡山 明氏 保険者等の個別保健事業の評価について、ガイドラインの改訂の流れも踏まえて講演</p> <p>■グループディスカッションによる情報交換 「個別保健事業の評価について」 「個別保健事業の評価」について支援・評価委員によるグループディスカッションを行い、意見交換を実施</p>